

第5学年 国語科学習指導案

公開授業Ⅰ 5年2組

公開授業Ⅱ 5年1組

児童 5年1組 計24名
 5年2組 計24名
 授業者 5年1組 榊原 正 弥
 5年2組 高橋 道 子

1. 単元名 「文章の要旨を読み取って、推薦するための本の帯を作ろう」
 教材名 「森林のおくりもの」(東京書籍 5年下)
2. 身につけさせたい力と単元を貫く言語活動の構想

単元を貫く言語活動

<児童の実態>

- 「序論」「本論」「結論」の段落構成をおさえて読むことは、ほぼ定着している。
- 段落のまとまりの事柄を考えて読むことは、ほぼ定着している。
- △事実や意見との関係を読み取り、結論との結びつきを考えて要旨をとらえることがまだ定着していない。
- △目的に応じて本や文章を比べて読むなど、効果的な読み方を工夫する力が身につけていない児童が多い。
- △自分の考えたことや思ったことを進んで発言することに苦手意識をもっている児童が多い。

<身につけさせたい力>

- ・目的に応じて、文章の事柄を的確におさえて読み、要旨をとらえる力。
 (読むこと ウ)
- ・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読む力。
 (読むこと カ)

<言語活動>

森林についての本を読み、本の帯に推薦の文章をまとめること。
 (言語活動例 エ)

<既習事項>

- ・中心となる語や文をとらえること。
- ・文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。
- ・目的に応じて、いろいろな文や文章を選んで読むこと。

<これからも指導していきたい力>

- ◇段落相互の関係を読み取って、文章構成をおさえる力。
- ◇目的に応じて、文章の事柄を的確におさえて要旨をとらえる力。

3. 単元について

(1) 言語活動の特徴とつきたい力との関係

本単元での言語活動は、森林についての複数の本や文章を読み、その要旨をとらえ、本の帯を通して推薦の文章を書くことである。

今回の帯では、要旨を様式の中に取り入れることにした。要旨とは、「筆者が意図した述べたいこと」の中心となる事柄と「読み手が書き手となったときの考えの中心となる事柄」の2つあると考える。多くの人に資料を推薦するためには、筆者の要旨をとらえたり、資料の事柄をおさえたりすることが必要である。本単元では、本の帯という表裏二面形式のものを活用し、前述の2つの要旨をとらえさせたい。そこで帯の様式として表面に「筆者が意図した述べたいこと」の中心となる事柄（以下、筆者の要旨）をまとめたもの、裏面に「読み手が書き手となったときの考えの中心となる事柄（以下、自分が推薦したい事柄）」をまとめたものをそれぞれ書かせることにした。帯に引用したり、自分の考えをつけたしたりして短い言葉でまとめる活動を通して、要旨を読み取る力をつけていく。

(2) 指導にあたって

本単元では、要旨をとらえる力や複数の本や文章を選んで比べて読む力を身につけさせることをねらいとしている。そのために、森林をテーマとした自分たちの生活と自然との関わりを考えさせることができる説明文を読み、文章構成から要旨をとらえる学習をする。

そこで第一次では、児童の関心の高い動物の話題から児童にとってなじみの薄い森林の話題に興味をもたせ、さらに教師が作成した森林の本の帯を提示することで、「森林の話題」と「帯作り」の両方に興味を抱かせながら学習の目的意識をもたせていく。

第二次では、教材文「森林のおくりもの」を読んで、文章構成や筆者の要旨、自分が推薦したい事柄をおさえ、帯の様式にまとめさせる活動を通して、要旨のとらえ方を学ばせる。文章構成や筆者の要旨をとらえる時の手立てとして、文章の全体をとらえやすくするために、教材文と文章構成図を1枚にまとめたワークシートを活用する。「筆者の要旨」については、書き抜きや言い換えをして短い言葉で表現させる。また、「自分が推薦したい事柄」については、2段落構成とし、1段落目には自分が推薦したい話題の要約、2段落目にはそれについての考えを書かせる。さらに、本を紹介するためのおすすめの言葉など、より多くの人を引きつける表現の工夫についても考えさせたい。第三次での「帯作り」が主体的な活動となるように、全体での活動から個への活動へと段階を踏んだ学習を仕組んでいきたい。

第三次では、第一次から並行読書をしていたものの中から、自分が一番興味をもった短編本を選ばせ、その本の帯を作る活動を行う。第二次の学習を第三次に円滑につなぐため、短編本は教師が自作したものを使う。第二次で活動したことを生かしながら、並行読書してきた3つの短編本の文章構成や要旨をとらえ、その中から推薦したい短編本を選び、主体的に帯作りをさせる。森林を話題にした本をより多くの人に読んでもらえるように、相手意識をもたせながら進めていきたい。

4. 単元の目標と評価規準

- ・相手に興味をもってもらうために、本を選んで推薦しようとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- ・相手が興味をもつ文章を推薦するために、筆者の要旨をおさえて読み、推薦したい事柄を見つけることができる。 (読むこと)
- ・森林をテーマにした文章を重ねて読むなど、複数の文章を比べて読むことができる。 (読むこと)
- ・帯に使われた言葉が帯のねらいに適切であるかどうかを感じ取りながら読むことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(評価規準)

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・相手に興味をもってもらうために、本を選んで推薦しようとしている。	・相手が興味をもつ文章を推薦するために、筆者の要旨をおさえて読み、推薦したい事柄を見つけている。 (ウ) ・森林をテーマにした文章を重ねて読むなど、複数の文章を比べて読んでいる。 (カ)	・帯に使われた言葉が帯のねらいに適切であるかどうかを感じ取りながら読んでいる。 (イ (カ))

5. 単元の指導計画（9時間）

次	時	主な学習活動	言語活動に関する留意点	評価規準 (評価方法)
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> 教師自作の本の帯を提示し、「森林」について興味をもつ。 「森林」についての本を読み、その本をみんなに読んでもらうための帯作りをするという学習の見通しをもつ。 学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の関心が高い動物の話題から、森林の話題へと繋げていくことで、児童にとってなじみの薄い森林について興味をもてるようにする。 教師自作の帯の提示から自分も読んでみたいと帯がある事により本に興味をわくことをおさえ、帯作りの意欲を高めるようにする。 森林についての短編本（教師が自作）を用意して並行読書を進め、その本の中から多くの人に読んでもらうための帯作りを行うという見通しがもてるようにする。 	【関】 相手に興味をもってもらうために、本を選んで推薦しようとしている。 （観察・発言）
	1	<ul style="list-style-type: none"> 帯について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 帯に興味をもたせる。 様々な帯を見せることで、帯の良さについて気づけるようにする。 （帯のよさ：本を開かなくても、事柄の一部を知ることができる。読みたいと思わせる。） 帯の書き方の工夫を知ることができるようにする。 	
第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> 全体を4つのまとまり（意味段落）に分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体を見て構成を把握させるために教材文を一覧できるようにする。 教科書 P47 の文章構成図を参考に、書かれている事柄が確認できるようにする。 文章構成図から筆者の要旨を考えることができるようにする。 	【読】 相手が興味をもつ文章を推薦するために、筆者の要旨をおさえ読み、推薦したい事柄を見つけている。 【読】 森林をテーマにした文章を重ねて読むなど複数の文章を比べて読んでいる。 （観察・発言・ワークシート）
	1	<ul style="list-style-type: none"> 帯の表面を作る。（文章全体から筆者の要旨にかかわる帯を作る。） 	<ul style="list-style-type: none"> 教師自作の本の帯のパーツでいうとどの部分にあたるのか確認させる。 帯は要旨に繋がるものの中から、書き抜きや言い換えをして、短い言葉で表現できるようにする。 より多くの人を引きつける表現の工夫もできるように例示する。 	
	1 (2組本時)	<ul style="list-style-type: none"> 帯の裏面を作る。（文章全体から自分が推薦したい事柄にかかわる帯を作る。） 	<ul style="list-style-type: none"> 本論の中から自分が推薦したい事柄を取り上げ、まとめられるようにする。 帯は2段落構成とする。1段落目は、みんなに推薦したい話題の要約をまとめ、2段落目は、それについての考えを書くことができるようにする。 教師自作の帯は、本論の事実を話題にしたものと筆者の意見を話題にしたものの2パターン提示し、児童の帯作成の参考にさせる。 より多くの人を引きつける表現の工夫も考えることができるように例示する。 教師自作の本の帯のパーツでいうとどの部分にあたるのか確認させる。 	
第三次	2 (1組本時)	<ul style="list-style-type: none"> 並行読書した読んだ本の文章構成や筆者の要旨をとらえ、推薦したい本を選び、帯をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 並行読書した3つの短編本の文章構成を考慮することを通して要旨をとらえることができるようにする。 モデルの帯や第二次での帯を想起させ、第二次の学習活動を生かすことができるようにする。 グループ学習を通して、個人がまとめた帯の表面、裏面を読み合い、筆者の要旨や推薦したい事柄が適切に表現されているかとらえられるようにする。 	【読】 相手が興味をもつ文章を推薦するために、筆者の要旨をおさえ読み、推薦したい事柄を見つけている。 （観察・発言・ワークシート） 【言】 帯に使われた言葉が帯のねらいに適切であるかどうかを感じ取りながら読んでいる。
	1	<ul style="list-style-type: none"> 完成した本の帯を読み合い交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 違う本を選んだ子同士それぞれで帯を読んで相互評価する。 	

公開授業 I 5年2組 本時

6. 本時の学習（6時間/9時間）

(1) 目 標

「森林のおくりもの」から自分が推薦したい事柄をまとめ、帯の裏面を作ることができる。

(2) 展 開

段階	活 動 内 容	・手立て及び留意点 ◇評価規準
導 入	1. 前時を想起する。 2. 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 自分の推薦したい事柄をまとめ、帯のうら面を作ろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時では、みんなに森林の本を推薦するために筆者の要旨をまとめ帯の表面を作ったことを想起させる。 ・より多くの人に森林についての本を推薦するために帯を作るという目的・相手意識を確かめる。
展 開	3. 学習方法の確認をする。 4. 帯の裏面の書き方を確認する。 5. 自分の推薦したい事柄をまとめ、帯の裏面を作る。 6. ペアで読み合う。 7. ペアでの読み合いをもとに再度自分の帯を読み返す。 8. 帯の裏面を全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習はどのように進めていくのか見通しを持たせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①うら面の書き方を確認する(みんなで)。 ②帯のうら面を作る(一人で)。 ③作ったものを交流する(ペア・みんなで)。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自作のモデル帯を2パターン(本論の事実を話題にしたものと、筆者の意見を話題にしたもの)を提示する。また、モデル帯は、要約や引用をする際に参考になるような書き方にする。 ・帯は2段落構成とし、1段落目は、推薦したい話題の要約や引用をしてまとめること、2段落目は、それについての自分の考えを書くことをとらえられるようにする。 ・レベルアップできる児童には、さらに多くの人に読んでもらえるようにおすすめの言葉を入れながら書くことも確認する。 ◇相手が興味をもつ文章を推薦するために、推薦したい事柄とそれに対する考えをもとにして、本の帯をまとめている。(ワークシート) ・ペアで読み合う際は、発表の仕方の例と聞く側の視点を提示し、それに沿って読み合いを進める。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【聞く側の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2段落構成になっているか。 ②1段落目に推薦したい事柄が書かれているか。 ③引用や要約の仕方が適切であるか。 ④2段落目にそれに対する考えが書かれているか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスをもとに自分が帯に書いた事柄を直したり、友達が書いた事柄を読んで参考にしたりしながら、帯の裏面を完成させる。 ◇相手に推薦する事柄が伝わるように本の帯の表現を読み返し、まとめている。(ワークシート) ・交流する際は、発表の仕方の例と聞く側の視点を再度確認し、それに沿って交流を深めたり、完成した裏面のよさを認め合ったりできるようにする。
終 末	9. 第二次の振り返りをする。 10. 次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードを用いて、ここまでのことばチャレンジ学習について振り返り、第三次への意欲をもたせる。

7. 板書計画

自作のモデル帯

◎二段構成

- ・ 一段落目↓紹介したい事柄を
まとめる。
- ・ 二段落目↓それに対する考え
(引用・要約)

○レベルアップ

- ・ 多くの人に読んでもらおう

↓おすすめの言葉

自分の推薦したい事柄をまとめ、帯のうら面を作ろう。

【うら面の書き方】**みんなで**

- ・ 本論の一部から
- ・ 文章全体から

【帯のうら面を作る】**一人で**

【交流する】**ペアで** **全体で**

《発表》「わたしは、〳の部分(ところ)を紹介しようと思ひ、
次のように帯を作りました。」「帯の事柄」
「どうですか。」

《聞く》①二段落構成になっていたか。
②引用や要約の仕方はどうか。
③完成した帯のいいところはどんなところか。

+

公開授業Ⅱ 5年1組 本時

6. 本時の学習（8時間／9時間）

（1）目 標

筆者の要旨をとらえ、推薦したい事柄を選んで、本の帯をつくることができる。

（2）展 開

段階	活 動 内 容	・手立て及び留意点 ◇評価規準
導 入	1. 前時を想起する。 2. 学習課題を知る。 ・今日の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 本自分が選んだ本を紹介するための本の帯をつくろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に提示した短編本の文章構成や筆者の要旨を確認させる。 ・本時は、筆者の要旨と自分が推薦したい事柄をもとに、多くの人に関心をもってもらうための帯をつくる時間であることを想起させる。
展 開	3. 帯を下書きする。 4. 下書きの帯を読み合う。 ・同じ本を選んだグループ同士で、帯に記入したことを読み合う。 5. 帯の清書をする。 ・話し合いで出されたことを生かして、書き改めたり書き加えたりしながら、帯の清書をする。 6. 清書した帯を読み合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・表面には筆者の要旨に関わることを短い言葉でまとめること、裏面は自分が推薦したい事柄とそれに対する考えの2段落構成にすることを確認する。 ・司会者を決めて発表方法の例と聞く側の視点を提示し、それに沿って話し合いを進められるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【聞く側の視点】 表面①筆者の要旨をとらえているか。 ②短い言葉でまとめているか。 裏面①2段落構成になっているか。 ②1段落目に推薦したい事柄が書かれているか。 ③2段落目にそれに対する考えが書かれているか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの共通点、優れている点、修正・改善した方がよい点を出し合い、次の帯の清書に生かせるような話し合いにさせる。 ◇帯に書かれている言葉や内容が適切であるかどうかを考えながら、話し合っている。（観察・発言） <ul style="list-style-type: none"> ・司会者を決めて発表方法の例と聞く側の視点を提示し、それに沿って話し合いを進められるようにする。 ・書いている事柄のよさ、下書きから改善したところのよさを認め合えるような話し合いになるように話型を例示する。 ◇自分が興味をもった本を推薦するために、筆者の要旨や、推薦したい事柄とそれに対する考えをもとにして、本の帯をつくっている。（ワークシート・発言）
終 末	7. 本時の振り返りをする。 8. 次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、相互評価をして、学習をふり返らせる。 ・次時は、完成した本の帯を読み合い、交流することを知らせる。

7. 板書計画

